

特定非営利活動法人

認知症予防ネット通信

人生一〇〇年時代を

「みんなの

認知症予防ゲーム」

理事長 平田研一

生き抜くための

この通信四十七号が皆様のお手元に届く頃は、天皇の退位に伴う新しい年号が発表され日本中どのような雰囲気になっっているのでしょうか？

天皇陛下の映像を見ながら、不謹慎にも頭に浮かんだのは「人生一〇〇年時代」という言葉と「人生の扉」という歌です。「人生一〇〇年時代」は英国ロンドンビジネススクール教授のリンダ・グラットン氏が長寿時代の生き方について述べた著書「ライフシフト」で提唱した概念で

すが、グラットン氏は寿命が延びて一〇〇歳を超えるようになれば、これまでの生き方は覆されると考えており、その後の対策が必要であると書かれています。これをどのように感じられたのか分かりませんが、二〇一六年一〇月、小泉進次郎氏はじめ自民党若手議員らが立ち上げた二〇二〇年以降の経済財政構想小委員会から、「人生一〇〇年時代の社会保障へ」という提言が発表されました。この提言では、雇用形態に関わらず企業で働く人全員が入れる社会保険制度、ライフスタイルにあった柔軟な年金制度、健康に対する自助努力を促す医療介護制度を三つのポイントとして明示されています。日本政府も、翌二〇一七年

三月に「人生一〇〇年時代構想会議」を開催し、有識者議員としてグラットン氏を招いています。日本は、世界のどの国よりも急速に超高齢社会を迎えています。日本人の長寿化は加速しており、二〇六五年には、約二・八人に一人が八十五歳以上、約三・九人に一人が七十五歳以上になると予測されています。将来の平均寿命についても二〇六五年には、男性八十四・九五年、女性九十一・三五年となり、女性性は九十年を超えると考えられています。

高林前理事長からの『贈る言葉』を今一度読み直していただき、一緒に活動を広げていくためのご協力をお願いいたします。事務局機能を再構築したら、分かる範囲からになります。ゲームリーダーさんへ具体的なご相談をさせていただきます。と考えています。

後になりましたが、去る三月二日開催の高林實結樹名誉理事長の京都新聞大賞福祉賞受賞祝賀会に際し、急なご案内また出にくい時間にも関わらず、多くの皆さまと一緒に受賞を喜ぶこと、本人はもとより関係者一同、心より御礼と感謝を申し上げます。

47号

2019年4月15日

編集・発行
NPO法人
認知症予防ネット

〒611-0031
京都府宇治市広野町
一里山15-10

電話
0774-45-2835
FAX
0774-45-2793
メール
npo@n-yobo.net
HP <http://www.n-yobo.net/>
FB <https://www.facebook.com/yobo.net/>

全国のゲームリーダー

養成講座修了の皆さま

人生一〇〇年時代を価値あるものにするためにも「みんなの認知症予防ゲーム」を全国津々浦々に広げる必要があると決意を新たに！

◇

2019年(平成31年)3月9日(土曜日) 洛 夕 伊 新 報

認知症予防で福祉貢献

宇治市のNPO法人認知症予防ネットの名誉理事長、高林實結樹さん(87) 同市広野町IIの京都新聞大賞「福祉賞」受賞祝賀会が2日、京都市内のホテルで開かれた。

【周きの語を】 一尽謝を真の感を持ち高林さんへ持高林さん【写へい持高林さん】 困な気る

宇治市のNPO法人認知症予防ネットの名誉理事長、高林實結樹さん(87) 同市広野町IIの京都新聞大賞「福祉賞」受賞祝賀会が2日、京都市内のホテルで開かれた。

同法人関係者や認知症予防に取り組む人々、福祉関係者ら約60人が出席した。

冒頭、同法人の平田研一理事長が「皆さんに高林さんの熱い思いを感じていただくとともに、高林さんに元気をちようだいし、ますます活躍していただく会にしたい」と呼び掛けた。来賓の宇治明星園理事長の辻村禎彰さんが祝辞を述べ、「高林さんは『ブレない人』『自分を立派に育てられる人』とたたえた。高林さんは「皆さんが応援してくださったからこそこの受

賞。これだけの人が、同じ思いをもって活動されているのを見ると、ほんまにここまでよかったーと思う」と感慨ひとしお。



「私がもらったことになっていくけれど、皆さん一人ひとりが頂いたのと同じ」と感謝の意を述べ、今後の活動へ意欲をにじませた。

同賞は京都新聞と京都新聞社会福祉事業団の共催。京都、滋賀で地域福祉の向上に貢献のあった個人や団体に贈られるもので、昨年11月に贈呈式があった。高林さんは同法人の初代理事長としてNPO立ち上げから16年、それ以前の個人活動からは35年にわたって、認知症の介護支援と進行予防の活動を続けている。◇(以上は洛夕伊新報の取材記事)

受賞祝賀会は平成三十一年三月二日、午後一時から三時まで京阪ホテルで開催。お祝いの言葉はすべからく、高林名誉理事長の努力、苦勞、支援に対する賞賛と感謝で、ゲームのお陰で助けられたと涙ぐむ方や



お付きあいの長い方はその努力と忍耐について、言葉を詰まらせる方もあり、八十七歳の今日まで、認知症予防、進行防止に突き進んできた方に相応しい祝賀会でした。◇

お祝いの寄せ書きから

・我が胸のもゆる思いにくらぶれば 煙はうすし桜島山(勤王志士平野二郎國臣の歌)(認知症予防を理解されない時代からの努力を察して)

・「この賞は長い伝統のある賞や、草の根で頑張っている人を推薦してくるように」と京都ボランティア協会に席をおいた矢先に電話がありました。

・ぶれず元氣老人のお手本をつくらせて頂いていきますので百二十まで生きぬいてください。
・人生をかけての認知症予防の実践に感動しています！日本のマザーテレサとしてノーベル賞を是非。

(続10頁)

京都新聞大賞受賞祝賀会で受賞の対象である高林名誉理事長の活動の歴史を自筆で「宇治明星園に育てられて」の表題の冊子にして配布しました。その活動は取りも直さずNPO法人認知症予防ネットの歴史であり、指針でもあるので、通信に掲載し読者の皆様の当法人へのさらなるご理解を頂き、今後の活動にご支援下さいますようお願い申し上げます。

編集部

宇治明星園に育てられて

NPO法人認知症予防ネット

名誉理事長 高林實結樹

電話見舞い係

一九七〇年代当時、認知症のアルツハイマー型は日本人では3%だ、大多数は血管性だ、と調査も統計も無いのに漠然と言われていました。そしてデイサービスもシヨートステイも、「寝たきり老人等」だけが対象と、老人福祉法で定められていたのです。同居の母がアルツハイマー型老年痴呆と診断されたのはその頃です。

いろいろな時期を過ごして、風邪

から寝込んで、嚥下性肺炎になり、病院の救急室で痰の吸引をしていただき、その後は吸引器を借り受けて、家族で苦しくないように吸引をして、最後まで自宅で見送りました。病院の救急室よりも家族の手のほうが、ずっと穏やかに吸引ができて満足していたものです。

「介護」という言葉もなくて、「ばけたら人間おしまい」と決めつけられていた時代です。

今でこそ全国組織の大きな団体になっている「公益社団法人認知症の人と家族の会」の前身、「呆け老人を抱える家族の会京都支部」(以降「家族の会」と略称)に入会し、介護家族たちが介護の悩みや知恵を話し合う会(以後「集い」と略称)に初めて出席したのは、「ホテルビノ京都堀川」だったと記憶します。受付では、その世話役をしてもらった故白井ひなさんが、温かな声をかけて迎えて下さったのを忘れません。

月に一度、三条東山通り近くの要法寺で定期的に家族たちの「集

い」が行われて、いろいろな学びを得ていましたが、母の没後には何か世話人になっていました。その世話人会が、京都駅前の京都支部長のお宅で開かれた時から、宇治明星園の辻村総園長や松島副総園長と、お話しを交わすようになりました。

私と妹とはいつも二人三脚のように、両親の存命中は家業を助ける為に約四十年を過ごし、父の没後は母の発症で、約十年を過ごし、母の没後は妹と二人で実家を出て、実家と勤務先との中間地点の賃貸マンションに移り住んで、民間病院の経理部や用度課の事務仕事で、生計をたてていました。

「家族の会」の顧問の故三宅貴夫先生が、介護が終わったから時間が出来ただろうと思われたらしく私に、会員家族たちの電話相談を担当してほしいと言われたのです。しかし、「相談などを受ける知識は無いので出来ませんが、お見舞い電話ならば」と言いましたところ、それでも良いからと仰って、A会

員(介護中の家族)名簿を百人分ほど預かり、勤務の傍ら毎晩、見知らぬ介護家族にお見舞い電話をかけ続ける生活になりました。

電話相談などなかった時代、誰も考え付かないボランティアの電話見舞い…

京都では私一人が従事していたようです。故石井完一郎先生の「命の電話」の講習は受けたことがありませんが、「命の電話」のような電話の待ち受けではなく、認知症介護中の相手先の状況も分からないのに、突然ベルを鳴らしての押しかけ電話。相手はどのような取込み中か判らない…。かなり恐れを感じるスタートでした。しかし薄い名簿がずしりと重く見えるのでした。黒電話のダイヤルを回さねばなりません。最初の頃の電話は「はい、はい」だけの反応でしたが、ほのかな温かさで受け止めていただいていると感じました。思い返すと、ただの一度も、怒りの反応はありませんでした。

自宅で、勤務から帰った夜に、

2〜3軒ずつ。日曜日は勤めが休
みでしたから、午後から晩までず
っと、電話の受話器を握り続けて
いたので、遠慮がちでも深刻な話
しを長時間聞くと気持ちが悪くて、
私的な趣味なんか吹っ飛ばす毎日
でした。

押しかけ見舞い電話の話しかた
は、「命の電話」とは全く違って、
自分が電話相談でイヤな思いをし
たことを反面教師にして、「御無事
ですか。一人で悩まないで下さい
ね。何時でも困った時はダメモト
と思つて、先ず私の電話番号〇〇
〇に電話をくださいね。良い制度
が出来ているかも知れないし、何
かお手伝い出来るかも知れませ
んから。」と、そればかりを言い続
けていました。

その中での強烈な思い出は、介
護殺人直前のようなケース、息子
の立場の男性と、嫁の立場の女性
と、二例に出会ったことです。深
夜にタクシーで走ったり、日曜日
にお留守番に行ったり、少しはお
手伝いが出来た確信が、その後の

私の三十五年間の生き方を決めた
ように思います。

いろんな話を聞くと、寝たきり
の高齢者にはデイサービスなど福
祉の対策がありました。施設も
病院も、どこも「ボケがある人お
断り」で、一時も息抜きをする事
ができないという社会の仕組みが
見えてきました。何時もそのこと
が頭から離れないまま、お見舞い
電話は一九八三年(昭和五八年)か
ら名簿は補充されることなく、少
しずつ減りましたが、細かい繋がり
は転居する一九九五年(平成七年)
まで続きました。

「呆け老人をかかえる家族の会

京都支部だより」の作成係

同じく一九九三年

(昭和五八年)「京都

支部だより」という



名の通信発行を押し付けられて、
パソコンも単なるワープロも無か
った時代、原稿を寄稿してくれる
人もなくてペンネームを幾つも使
つて、深刻な悩みの家族の代弁や、

介護の智慧、ドライシャンプーの
仕方、褥瘡対策の砂糖療法(抗生
物質とグラニュー糖を混ぜ合わせ
た粉末を褥瘡の患部に振りかけ
る)、砂糖なので、直ぐによつてく
る蟻を寄せ付けない工夫、空き缶
の蓋に水を少し入れて、ベッドの
脚を一センチ未満の深さの小さな
水槽に浸す夏場だけの工夫などな
ど、知る限りの知恵を振り絞つて
手書きで清書して、印刷してもら
っていました。

八月号から始まって、翌々一九
八五年(昭和六〇年)まで続けると
腱鞘炎になって、字が書けなくな
り、「家族の会」の先輩の山添洋子
さんに交代をしていただきました。

「集い」に参加も出来ない多忙な
介護家族に、少しでも情報を届け
ようと願つてのことでしたが、一
人作業では二年でダウンしました。

デイケア運営協議会

一九八七年(昭和六二年)十月八
日からボランティアのみによるデ
イケア活動が京都市右京区で始動

しました。A医師の呼びかけで家
族の会京都のメンバーも山添さん
始め複数参加して、「痴呆性老人デ
イケア運営協議会(後に改称)ホ
ームケア友の会」は、毎月の勉強
会から始まり、嵯峨健光園の軒先
を借りる形で、デイサービスでは
ない、月二回のデイケアという
活動が開始されました。私はグル
ープの裏方で、勤務の傍ら又も会
報紙「友の会だより」の編集発行
する役も引き受けて、その時には
ワープロを購入しました。

一九九一年(平成三年)、隔月発
行で二十号まで四年目に進んだ時
には、老人福祉施設自身の事業と
して、デイサービス事業を本格的
に着手されることになったので、
メデタイ社会改革だ! バンザイ
解散だ! ボランティアの役目は
終わったと喜んで、二十一号で最
終号ということで、ボランティア
グループは解散しました。

当時のボランティアは無償が当
たり前で、初期には自分たちでカ
ンパし合い、後には京都新聞社会

福祉事業団に助成金を申請しての事業でした。費用は送迎車の借り

受け費用と、メンバーの電車賃・電話代のみを十円刻みで渡すだけであり、誰も日当を求める人は居ませんでした。同胞愛だけでした。

地域は限られていましたが、痴呆性老人には月二回のデイケア以外の支援は何も無い時代でしたから、非常に感謝されました。

高齢社会をよくする

女性の会・京都

ボランティア活動中の一九九〇年(平成二年)九月に「高齢社会をよくする女性の会京都」が全国大会を左京区の岡崎で開催すると言うことで、誘われて運営委員になり、痴呆性老人対策が京都府内では、どの程度実施されているかの府内全域の施設の実地調査を、三人グループで行いました。痴呆があっても迎えてくれる施設は、「痴呆も可」と返事が来ます。『京都お年寄りサービスの手引き』A5判66ページの冊子にまとめて、全国大会の当日に販売されたところ、

とても評判が良くて各地の参考になったようです。

「痴呆も可」とありますが、その実態は個室の床にむきだしに和式便器が掘り込んで有り、監禁室のように部屋の外から施錠してモニターで事務室から常時見られているという設備で、お見舞いに同行して寒気を覚えるほどに驚いたものでした。

一九九一年(平成三年)六十才定年で病院の一隅にあった関連会社に移籍しましたが、ヘルペスが眉間の真ん中に出て、みるみるうちに腫れあがり、お化けのような顔になって皮膚科で診て頂き即座に入院命令……。制服のまま二十四時間の点滴漬けに突入……。その甲斐あって、眉間に痕跡を残すだけで、治して頂きました。ヘルペスが脳のほうに拡がったら廃人になるのだそうです。
ドクターやナース、事務方のできばきした即決のお陰で、その後の命を頂いたと思っています。それは運命でもありました。院内の

いろんな役職の方、元国立病院事務長とも親しく話ができる、人脈が一気に拡がりました。後年の活動の奇縁と言うか、天命だったと思います。

介護殺人をせめてUSOは

国の制度だ

私は自分の体験と、電話見舞いで介護家族の多岐に亘る苦悩を聞き、介護家族による介護殺人は、決して家族が加害者者ではなくて、殺人に至った介護者こそ、国の制度から見放された被害者であるという自分なりの結論に達していたので、どうしたらこの最悪の尊属殺人をさせない国になるのかと、答の出ない思いを深めるばかりで年月を送っていました。

ある時、大阪の未知の人から、何か救いの手立てはないかという相談電話があつて、地域が異なる痴呆対策が異なり、京都以上に大阪では税制(確定申告)でも恩典が無いこと(特別障害者控除の適否)を知りました。特別障害者

控除の対象になることの証明書発行の規定があることを、福祉事務所がご存じないとのことでした。国税なのに、地域による不公平が現存していると知って、国内一定でないのは何故かと不審に思い、当時としては新しい『老人六法』という一九九二年(平成四年)発行の中央法規出版の本を買って目を通すと、老人福祉法に「ねたきり老人等」という言葉が頻出して、痴呆(認知症)は除外されている印象を与えているのです。もし用語を「痴呆ならびにねたきり老人等」と明記してあれば、都鄙をなべて恩恵に浴せる筈だと、

独り合点をしたのです。思ったら即実行をしないと女がスタル……。折しも勤務先の用度課の部屋で、皆が出払っている時間帯に、看護師さんが雑誌を持参されて、職員研修に使いたいから、病院で教材として購入をと願いに来られました。何気なく預かった雑誌の表紙のタイトルを見ると『看護と介護・痴呆特集』(創刊準備号平成五年九

月配本)と有ったので、ページを繰
つてみると、旧態依然のアルツハ
イマー型は処置なしとばかり書いて
ある、しかし、その中に傑出し
た記事が二つあったのです。

一つは「行政担当者に聞くゴール
ドプランの展開で老人保健福祉サービ
スはこれからどうなるのか」と言う

見出しで、厚生省(以降厚生省)

老人保健福祉局企画課企画法令係
長 井原辰雄氏の回答の中に在宅
福祉推進十カ年事業の一つとして

(2)ショートステイ「寝たきり老人
等の介護者に代わって、特別養護

老人ホーム等で短期間、高齢者を

お預かりします。」
と書かれていました。何故寝た

きりと虚弱老人だけなのか!

厚生労働省へ

6文字増の願いを届けに

病院からも施設からも老人福祉
法からも締め出されている証拠を、
法律書で確認して、寝たきりと虚
弱老人だけでなく、「痴呆ならびに」
と、六文字を老人福祉法に加筆し

てほしいと燃えるように思い立ち
ました。すぐさま休暇をとって、
単身で厚生省の井原辰雄係長(雑
誌の執筆者)に陳情に行つたので
した。それは介護保険法が水面下
で検討されていた時代、一九九三
年(平成五年)の秋のことです。

厚生省がどこにあるかさえも知

らなかつたのですが、勤務先の国
立病院ご出身の事務長が、厚生省

の館内図を教えてください、部屋

の見当も付けて下さり、東京の地
下鉄の乗り方も教えてください、
思いがけない応援を頂きました。

その予備知識もなしにただ霞ヶ関

駅に降りても、厚生省とは、京都
の大丸百貨店より遙かに高層のビ

ルでしたから、怖じ気づいて役所
の中にさえ、足が進まなかつたか

も知れません。目指す人に、おそ
らくは会えなかつたと思います。

部屋まで見当が付いていた私は、
登庁時間に玄関で迎える覚悟で、

早朝に東京に到着する夜行バスに、
生まれて初めて乗りました。テロ

も無かつた時代なので、アポイン

トも取らず無断でスイスイと、広
いエレベーターホールに内心驚き
ながら、大きなエレベーターに乗
つて、突然の訪問でした。幸運に
も目指す相手に会うことが出来、
最敬礼をして認知症にも福祉の光
を! 家族に介護殺人をさせない
ために、と勢い込んで、冷静に、
京都弁でも聞こえやすいようにと
注意しながら、心からのお願いを
言いました。

先方の思い込みに対しては、地
方での実態は違ふと、燃えるよう
な勢いで反論もしました。

帰宅してから数日後、厚生省か

ら分厚い書類が届いて、「要援護老
人という名称ならば、どうか」と

メモが有ったので、飛び上がるよ
うな思いでしたが、結局目の目を

見ず、介護保険法が制定されて世
の中が大きく変わりました。

増田方式のデータ

厚生省行きを思い立たせたその
雑誌には、もう一つ「高齢者リフ
レッシュセンタースリーA」とい

う長い名前の事業所で、認知症の
軽度発症者九人の合宿教室に於け
る三か月後の改善データが発表さ
れていて、発症者が元の生活に戻
れるという報告を読み、腰が抜け
そうに驚きました。

三〇点満点のMMSEという簡
易テストで、なんと三ヶ月後には
四十五人の平均で、六・二点の上
昇で、職業復帰が果たされた報告
でしたから。

母には間に合わなかつたが、京
都にもこの教室を欲しいとつくづ
く思いました。筆者に電話をしま

したが、残念なことに「看護師と

いう医学の資格がない。学校の先
生のような人にものごとを教える

経験がない。部下の統率力もない。」
という三条件に阻まれて、「あなた

には出来ません」という烙印を押
されました。諦めきれなくて、そ

のデータを人に知ってもらうだけ
の広報マンを一人で始めました。

再就職の病院勤務時代の出来事
です。

再々就職宇治市

小倉デイサービスセンター

一九九五年(平成七年)のことで、宇治明星園が取り組まれた小倉小学校の空き教室を転用してできた日本で最初のパイロット事業のデイサービスセンターがオープンと決まりました。

「呆け老人をかかえる家族の会」の世話人会で一緒になった明星園の松島慈児副総園長から、「パイロット事業の初代事務員に来てほしい」と頼まれて、高齢者福祉の世界に入りました。阪神淡路大震災の年だったので、電車が運休になっても仕事に支障のないようにと、京都市内の賃貸マンションから、宇治市小倉町の小さな中古の戸建てに浮草のように転居して、憧れの自転車通勤を始めました。自分に自転車を買うなんて贅沢は、生まれて初めてで、坂道をサドルに腰かけたまま、ガンバってペダルを踏み、脚力の鍛錬としていました。

小倉事業所は、一階のデイサー

ビスセンター、二階の在宅介護支援センターやデイホームも入れて職員は全部で九人の小所帯でした。朝夕の玄関のカギ当番は毎日私の担当でした。人手不足なのでお風呂場での着脱なども手伝って、本業の事務仕事は送りの送迎車が発してからのような日々でした。

何しろ日本唯一最新のパイロット事業なので、全国から見学のお客が絶え間なし。センター長がお留守の時は事務員の私が、見学者の案内と会議室での説明もこなす、などをしていました。

大阪府から横山ノック知事の見学来訪の時は、事務室の中から廊下を通られる知事一行を窓越しに見ていたら、ノック知事ただ一人が顔を室内に向け、私に対してにこやかな会釈をされたので、さすがだなあと、感服しました。あの時の軽い爽やかな笑顔は、ご苦労さんとねぎらってもらった気分でした。

落ち着いて事務が出来ない事務員を経験して、そのおかげで私は

「人見知り」から脱して、誰にでも国の方針や宇治市長の英断や、教室転用で小学生とデイの利用者さんとの窓越しから自然に始まった交流の様子など、大勢の人を相手に一人で喋るといふ度胸を養うことができました。

いろんなタイプの認知症の症状を毎日見聞きし、非常に多くを学びました。其の月謝と思えば、夕方から取り組む事務仕事の隠れ残業など、今思い出しても感謝の思いが深くなるばかりです。

このデイサービスセンター勤務で、ひどい腰痛になり、一九九七年(平成九年)末の御用納めで玄関の固いカギをかけ終わって一年九ヶ月という短期間で退職しました。そしてその足で、自宅とは反対の南に向かって腰をさすりながら歩き出しました。目的は「高齢社会をよくする女性の会・京都」と言う会で知り合ったY君が、宇治に転居してきて、衆議院選挙に出て落選し、次期を目指すと言って、認知症問題をライフワークにする

と聞いたため、その事務所に顔を出しに行つたのです。

一九九七年(平成九年)正月から選挙事務所のボランティアに

その事務所たるや極端な手不足で、御用納めの日の夕方なのに、年賀状の宛名書きが出来ていなかったの、見るに見かねてその場で年賀状書きを手伝い、毎日朝から深夜まで、労働条件の無いボランティアで通うようになりました。「電車賃をくれたら毎日でも来る」

だなんてあけすけに言う人もおられて、そのような要求に応じたら選挙違反だ、私がY君の前に立ちふさがって「たかり虫」から守つてあげねば、と事務所の会計係りを担当し、毎日、時には二十四時間の徹夜勤務も体験しました。体もこわしましたが、私が得たのは、選挙からむボランティアには、各人各様の思いがあることを知つたのと、パソコン入力を覚えたことが、最大の「褒美」でした。

選挙の前日には疲労がピークに

達して、電話の受話器も重くて持てなくなり、耳も聞こえなくなり寝込んでしまつて、当選万歳にも参加しない、完全影働きで終りました。

二〇〇一年～NHKテレビ

『ぼけなんか恐くない』

Y君の知人であったNHKテレビのKディレクターから、グループホームの実写作品『ぼけなんか恐くない』が「明日テレビで放映されます」というFAXが流れてきて、それを私がY君に手渡しした時から、その放送のビデオ化に取り組む事になりました。渋谷のNHKに相談に行きましたが、NHKの著作権があるので、大変なおカネが必要とわかり、個人で取り組むことではない、全社協とかにしてもらう事業だと教えられ、全社協の本部を訪ねると、社協がNHKというよその会社に協力するようないことは前例が無いと言つて、断られました。スゴスゴとその結末をNHKのディレクターに

報告すると、助成金を下さる団体があるから、そこへの申請を薦められました。アタフタするばかりでしたが、結果はビデオ化が実現したのです。

助成金で六〇〇本作製。全国の福祉専門学校などに広報をすると、早朝から晩まで、全国から、注目のFAXが鳴りっぱなし状態で、

研修用ビデオ	
『ぼけなんか恐くない ～グループホームで立ち直る人々～』	
発行	高齢社会をよくする 女性会・京都
協力	グループホーム至誠
解説	外山義 (京都大学大学院教授) 永田久美子 (高齢者痴呆介護研究・ 研修センター)
ビデオ制作	NHK 九州メディス

妹と二人で、発送作業に目を回すほどでした。六〇〇本は直ぐに無くなり、教材としての要望が多く、篤志家A医師の協力によって、合計では約一万本ほどの非売品ビデオテープの送料のみでの発送に追われ続け、フラフラ状態でした。

『痴呆(認知症) 予防教室(増田方式) に関する調査研究報告書』(全国二六〇〇都道府県市町村長に謹呈発送)

前述の選挙事務所は、聞くも涙の薄給のスタッフと、多くの学生ボランティアと、Y君を取り巻く地域の方たちの献身的働きで動いていました。その中に一人、京都

大学工学部の院生で毎日実験ばかりしていたという寡黙温厚なK君、後に銀行系シンクタンクに就職したという変わり種が居られました。何事も奇縁というものがあります。厚労省の課長補佐T氏が京都に講演に来られた時に面談が叶い、増田氏の功績を訴えましたところ、親切なアドバイスを頂きました。増田方式を採用している施設の全国調査をまずは実施する事だ、とのこと、その費用も厚労省に補助金を申請するという道を教えて下さいました。そこで磁石に飛びつく砂鉄のように結び付いたのが、銀行系シン

クタンクの社員となっていたK君です。静岡の増田末知子氏のアクティビティが、高い成果を上げているにもかかわらず、知る人ぞ知るで、世間に周知出来なくて、個人活動の範囲内のような実態を嘆いていたのを聞きつけられ、そのような全国調査をするのが自分の仕事なのだと言われたのです。

話は二転三転して、いろんな苦い思いもしましたが、最終的には纏まって、増田氏の許可も協力も得て、全国調査研究書が完成したのが、二〇〇五年(平成十七年)3月末で、厚労省の平成十六年度事業に滑り込みで間にあいました。その年の四月一日から、全国自治体に「地域包括支援センター」が誕生する直前だったので絶好のチャンス、この報告書を参考にしてもらいたい、という訳で、全国の都道府県市町村の首長宛に手紙を、「地域包括支援事業に役立てて下さい」と書き、「高齢社会をよくする女性の会」代表の樋口恵子氏の添え状も頂いて、郵送しまし

た。町村合併が進んでいた時期であり、自治体の数が三千三百から二千六百程に減少していて、発送作業の労力としては助かりました。

この全国調査と配布事業は、「高齢社会をよくする女性の会・京都」の事業として、日の目を見たのです。代表の中西豊子氏の巻頭言に経緯が書かれてあります。「高齢社会をよくする女性の会」の事業にするのが良いと、T課長補佐のアドバイザーによるものでした。一介の任意団体の「痴呆予防教室を拡げるネットワーク」では、厚労省が補助金の申請に応じる事も出来なかつたでしょう。私の能力では到底、嘆くだけしか出来ない大事業でした。

その郵便の中にアンケートを一枚同封しましたが、二千六百自治体の中から、八十五通の返信が届きました。三〇％程度の回収率です。

その中の一通、三重県松阪市の回答は、「認知症予防サービスについては、平成十八年度から実施予定。健康者層と認知機能低下段階層の

両方を対象とする」という内容で、八十五通の回答の中で、突出した具体策を考えておられる行政であることに、感銘を深くし、熱い心が伝わるもので、忘れられない思い出です。松阪市とは今も交流が続いていて、ボランティアさんたちがゲームリーダーの研修を積んで居られます。

NPPO法人を設立して、 認知症予防と、悪化進行予防と、 改善の活動

二〇〇四年(平成一六年)九月に、京都府知事からの認証を得て、「NPPO法人痴呆予防ネット」が誕生。増田方式による認知症予防ゲームの紹介活動をメンバー五人で、おぼつかない足取りでしたが、スタートを切りました。

当時NPPO法人の組織形態の認知度も低く、メンバーはボランティアなのか、社員としての就職なのか、パートやアルバイトなのか、個々の考えを聞かずに開始したので、想定外の問題も起きました。しかし認知症予防のゲームは、開

始してみると、明るい教室、楽しいゲーム、認知症の人々が快活に、元氣に変わってこられる、家族にも喜んでもらえる。東京のベターケアという雑誌の取材も受け、励ましてもらって、尚々効果を確信するようになりました。評判を聞き伝えて、遠方からお招きいただくようになると、各地にゲームリーダーを増やさねば、という思いが湧いてきます。大阪の交野市・泉南市などの行政からは、リーダー養成講座のご依頼を頂いて、メンバーの総力を結集しての出張となりました。

二〇〇七年(平成十九年)十月二十三日には「地域力再生プロジェクト」に申請した事業「ゲームリーダー養成講座五回シリーズ」が、JR宇治駅隣の「ゆめりあうじ」会議室で始まりました。これも行政の顔なじみになった方からのアドバイスによるものでした。

初めて主催するリーダー養成講座です。必要最小限の配布資料を、毎回その都度に考えて、配布した

資料が後の独立冊子、テキスト(A5判百二十ページ)作成に繋がりました。これも「高齢社会をよくする女性の会・京都」の中西代表の強力な支援を頂き二〇〇八年(平成二十年)に完成しました。そのテキストを使ってリーダー養成講座に順次取り組み、青い鳥養成講座と名付けて、地元の宇治市内で三十期まで継続しました。このテキストを教科書として、各地に受け入れて頂き、現在では全国四十七都道府県のうち、四十二都道府県にまで拡がっています。

二〇二五年問題を前にして、まだまだ教室が不足ということで、現在ではリーダーを養成する一段上の、講師認定審査会にも着手しています。私の力ではなく、韓国の大学で教鞭を執って居られた佐々木典子理事や、長年高齢者福祉の現場に居られて、特にグループホームで認知症ケアの実践にこだわった運営実績のある中村都子理事をNPPOに迎える事が出来たからでした。

こうして増田方式の予防ゲームの紹介から始まり、リーダー養成に転じ、遂に認定講師審査にまで、活動の中身が深くなってきています。数え切れない多くの理解者の方々のお陰です。

北海道から沖縄まで、遠隔地であらうとお招き頂いたらどこへでも喜んで伺いました。韓国では佐々木先生がソウルのデイサービス十箇所に導入されて、韓国政府による、介護保険事業優秀賞まで授与されておられ、今では二十箇所にひろがっていると聞きます。

サンフランシスコにある邦人の高齢者施設でもゲームが導入されています。

**北宇治地域包括支援センター
教室で必要に迫られて考案した
レベル混在共生ゲーム**

宇治市小倉デイサービスセンターの二階の大広間で毎月定期的に伺っている認知症予防教室では、近隣の六十五才以上の方が参加されていますが、約三十人ほどの中

に、一割程の既に発症している方がおられます。認知機能レベルが健常者九対一という比率です。自然、求められるのはレベル混在に共生社会に於ける、全員もろともに楽しい時間に浸る「ミニ共生社会」です。

必要に迫られて開発したゲーム進行法が、この条件の中で誕生しました。それを名付けて「五段階加速法」とか、「ロボット流」とか言っています。この方法によって、リズム感を失いがちな認知症当事者が、リズムに乗って楽しむことができ、笑顔と活気と社会性を取り戻して行かれます。

これを確信した私は、全国リーダー研修会で「五段階加速法」と「ロボット流」を覚えてもらって、全国に浸透することを願っています。

認知症になるとリズム感が衰えて、リズム音痴になるのだなど、教室で私が気づいただけでなく、オーストラリアのクリスティーン・ブライデン女史も、エスカレーター

のリズムに乗れない困惑を、テレビ取材に語っておられました。

おわりに

二〇一八年(平成三十年)、使命感だけで、なりふり構わずに、手当たり次第突進してきたような私も今年

は数えで八十八才。いつこの駅の階段で怪我をしても不思議でない

と自覚するようになりました。あまり迷惑を振りまかないうちに、二〇一八年(平成三十年)六月

いっばいで、NPO法人の理事長職を辞任しました。次代の理事長が誕生したことこそが、私の自慢と言え

ば自慢です。私自身は名誉理事長だなんて肩書きをもらって、照れくさいかぎりです。

宇治明星園に「育てて頂いた」お陰です。

厚く篤く御礼申し上げます ◇

お祝いの寄せ書きから(続2頁)

・受賞おめでとうと言っています。貴女の生き方に私達は励まされて今日まで来しました。温かい心と優しい生き方、学び続けてゆきます。

・「高齢社会をよくする女性の会」を体現され私達の憧れです。

・第三の人生は高林先生のおかげさまで歩ませて頂いております。

・どうぞどうぞいつまでもお元気で

・はじめてこのゲームに出合った時、これだ！と思えました。先生にお出会いたくもった大切に社会に広めて行きたいと思えました。

・高林マジックのパワーは全国こ



れからも
拡大、進
化です、
休みなが
らこれか
らも
◇



世界の津々浦々へ

各地からのお便り

サンデイエゴに招かれて

東京都府中市 加藤 良江

三月中旬、アメリカ、カリフォルニア州サンデイエゴに行つてまいりました。これは、一般社団法人Heartの代表横畑文美さんのご好意で叶いました。



お伺いした場所は、「シニアビレッジ さくら」です。週に一度

水曜会(デイサービス)をされています。

オーナーさんは、サンデイエゴで高齢の日本人が孤立しているのを何とかしたいと、探し出して声をかけ、無料で日本食を提供して、お裁縫、ペーパークラフト、朗読会などを行っています。

一回目の人数は二十名、主に高齢者でした。二回目は二十三名、一般の方も混ざり、年齢は様々でした。お一人お一人、楽しんでうにご参加くださいました。とにかく歌を大きな声で歌って下さったのも驚きでした。まるでコーラスを聞いているようでした。

日本と違うと感じたのは、体験した後すぐに、一人一人がこのゲームをどうしたら活かしていけるか?と考えたり、すぐに覚えてリードをはじめたり、大変意識が高いということです。

- ✿✿✿ 皆さんの感想 ✿✿✿
- ・ 日本に帰ったみたい。
- ・ 日本の歌は覚えているもんだね。

・ お年寄りに限らず、誰にでも使えると思った。

・ パーキンソン病の夫にやってあげたい、その人達の集まりでやってあげたい。

・ 皆さんで大声を出して、笑って、本当にあつという間に終わってしまった楽しい時間でした。有難うございました。こんな場合、週に一回とは贅沢すぎるようで願えませんが、月に一度ぐらいあればなあーと思います。

・ 海外で生活していますと、日本語で大声を出す機会など滅多に無いので、欲求不満の解消にもなります。どうぞ、何度でも来て下さって外国に住む日本のシニアの為に活躍して下さることを期待しております。皆様のご健闘をお祈りしております。

・ 楽しい体験をさせていただきありがとうございました。私は一人で参加しましたが、すぐ皆さんと打ち解けることができ、腹のそこから笑うことも最近無

かったもので、とても楽しかったです。私も優しさのシャワーで人に接することが、何か自分の得意分野で出来ないかと考えております。人を元気にさせると自分自身も元気になっていいですね。

・ 私は日本での私の友人や親戚にこの素晴らしい脳の機能を失うことを予防するための方法を、お知らせしたいと思います。

今回は、群馬県伊勢崎市の後藤三佐子リーダーに同行して頂き、加藤と二名でいってまいりました。



教室を始める

奈良市学園前 亀谷ユミ

平成三十年六月五日に京都府宇治市の高林先生の「青い鳥リーダー養成講座三十八期」を修了し「みんなの認知症予防ゲーム」のリーダーとして平成三十年八月から月二回第二・第四木曜日 個人のお宅で、とっても楽しくみんなで大笑いしながらゲームさせていただいております。せっかくだいだいた資格、始めないと使わない免許証持つてる。ペーパードライブみたいにいつまでたつても車に乗れるようになれないのと同じだと思ひ、大胆にもスタートしました。

隣に住んでる認知症の奥様が、毎日毎日来るがどうしてよいか分からなひと言つておられたお知り合ひの奥様に、丁度習つてきたばかりの予防ゲームを行つてあげましょうと、認知症のお隣の奥様が来るという方の家を、教室にして始めさせていただきました。

毎回認知症の方とご主人、又別の認知症の奥様とご主人、そしてゲームに関心のある健常の方々から始めました。

習いたてのリーダーでしたが、関心のある方々が助けて下さりながら、楽しいゲームをさせて頂き、その後のティータイムでまたまた大笑いしながらみんなリフレッシュいたしました。

認知症の方々だけでなく、ほんとうに、させて頂いている私たち自身の予防だねと、まさしく「みんなの認知症予防ゲーム」だねと、一同納得し、居合わせたみんなですばやく二十回を目標に続けさせてみましょうと決め、現在十四回させて頂きました。

認知症の方々毎回三名〜四名、健常の方々八名から十名参加し、そして、ベテランリーダーNさんが二〜三か月に一度応援に来て、リーダーサポートしてくださる時は、それはそれは流石で、楽しさ倍増、皆大笑いの渦です。中でも認知症の元先生が、ゲーム

する中で凄く明るくひょうきんにする姿で、その場を大変な盛り上げ方にしてしまつて、反対に私たちの方が脳活性化して頂いている毎回です。

こんな楽しさに誘われた方が一回の参加でその日に高林先生にテキストを注文され、十三回目参加の後、リーダー養成講座を申し込まれ、行つていらつしやるのとこのことです。又、介護施設のケアマネージャー派遣担当していらつしやる若い男性も、見学というか一緒にゲームに参加され、楽しくみんなで大笑いしています。

私があればこれ忙しくしているため、お家を提供して下さっている奥様もお気遣いくださり、今月一回にさせて頂いています。最初のきっかけの奥様は毎日のように、次回を楽しみに、楽しみにしてくださっているそうです。



ご案内

2019年度NPO法人認知症予防ネット
第15回通常総会開催

日時 2019年5月18日(土曜日)

午後1時〜3時

会場 市民交流プラザ「ゆめりあうじ」

宇治市宇治里尻5-9 JR「宇治」駅すぐ横

2019年1月～3月 活動報告

1月

1月9日	水	教室	京都府井手町	井手町地域包括支援センター	13:30～15:30
1月10日	木	養成講座	京都府宇治市	青空塾①	13:30～15:30
1月11日	金	教室	京都市右京区	西院デイサービスセンター脳活サロン	10:00～12:00
1月12日	土	教室	京都市北区	鳳徳サロン	13:30～15:30
1月12日	土	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:30～14:30
1月17日	木	カフェ	京都府城陽市	まごころ城陽:みんなのカフェ	13:30～15:00
1月17日	木	教室	京都府城陽市	城陽市社会福祉協議会陽東苑	13:30～14:30
1月18日	金	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:30～14:30
1月22日	火	教室	京都府宇治市	とんがりやまのてっぺんDE	9:30～11:30
1月23日	水	教室	京都府城陽市	友愛ホーム「もの忘れ予防教室」	9:45～11:30
1月23日	水	講演	大阪府八尾市	介護者家族の会河南ブロック交流会	13:45～14:45
1月24日	木	養成講座	京都府宇治市	青空塾②	13:30～15:30
1月25日	金	教室	京都府宇治市	京都認知症総合センター	10:00～10:30
1月26日	土	養成講座	京都市上京区	KBS京都カルチャーセンター	10:00～16:30
1月27日	日	養成講座	京都市上京区	KBS京都カルチャーセンター	10:00～16:30
1月28日	月	養成講座	大阪府枚方市	枚方市社会福祉協議会①	13:30～16:00
1月29日	火	教室	京都府城陽市	友愛ホーム「もの忘れ予防教室」	9:45～11:30
1月30日	水	養成講座	大阪府枚方市	枚方市社会福祉協議会②	13:30～16:00
1月30日	水	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:30～14:30
1月31日	木	教室	京都府宇治市	北宇治地域包括支援センター	10:30～12:00

2月

2月1日	金	養成講座	京都府宇治市	青空塾③	13:30～15:30
2月2日	土	カフェ	京都市下京区	松和学区カフェ	13:00～15:00
2月4日	月	養成講座	大阪府枚方市	枚方市社会福祉協議会③	13:30～16:00
2月5日	火	講演会	東京都千代田区	体験フォーラムin東京	13:00～16:00
2月6日	水	撮影会	東京都文京区	ほっとスマイルプロジェクト	10:00～17:00
2月6日	水	養成講座	大阪府枚方市	枚方市社会福祉協議会④	13:30～16:00
2月7日	木	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:30～14:30
2月8日	金	養成講座	京都府宇治市	青空塾④	13:30～15:30
2月8日	金	教室	京都市右京区	西院デイサービス脳活サロン	10:00～12:00
2月8日	金	養成講座	大阪府八尾市	八尾市健康福祉部 高齢福祉課①	13:30～15:30
2月9日	土	教室	京都市北区	鳳徳サロン	13:30～15:30
2月9日	土	養成講座	京都府宇治市	デイサービスセンターわっはっは神明	18:00～20:00
2月11日	月	教室	京都府宇治市	ファミリーの会同窓会	10:30～12:00
2月12日	火	教室	京都府城陽市	まごころ城陽南部コミセン	13:30～15:30
2月12日	火	養成講座	大阪府枚方市	枚方市社会福祉協議会⑤	13:30～16:00
2月13日	水	教室	京都府井手町	井手町地域包括支援センター	13:30～15:30
2月15日	金	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:30～14:30
2月15日	金	養成講座	大阪府八尾市	八尾市健康福祉部 高齢福祉課②	13:30～15:30
2月20日	水	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:30～14:30
2月21日	木	カフェ	京都府城陽市	まごころ城陽みんなのカフェ	13:30～15:00
2月21日	木	教室	京都府城陽市	城陽市社会福祉協議会陽東苑	13:30～14:30
2月22日	金	養成講座	大阪府門真市	門真市社会福祉協議会①	13:00～16:00
2月23日	土	講演と体験	和歌山県紀の川市	紀の川市高齢介護課地域包括支援センター	13:30～15:30
2月23日	土	養成講座	京都府宇治市	デイサービスセンターわっはっは神明	18:00～20:00
2月24日	日	講師事前講座	京都市伏見区	認定講師事前養成講座	13:30～17:00
2月25日	月	講師事前講座	京都市伏見区	認定講師事前養成講座	13:30～15:00
2月25日	月	講演と体験	京都府城陽市	城陽市社協陽幸苑	13:30～15:30
2月26日	火	教室	大阪府八尾市	八尾市健康福祉部 高齢福祉課	14:00～16:00
2月26日	火	教室	京都府宇治市	とんがりやまのてっぺんDE	9:30～11:30
2月26日	火	教室	京都府城陽市	まごころ城陽南部コミセン	13:30～15:30
2月27日	水	養成講座	京都府宇治市	青空塾⑤	13:30～15:30
2月27日	水	教室	京都府宇治市	京都認知症総合センター	10:00～10:30
2月27日	水	教室	京都府城陽市	友愛ホーム「もの忘れ予防教室」	9:45～11:30
2月28日	木	教室	京都府宇治市	北宇治地域包括支援センター	10:30～12:00

3月

3月1日	金	養成講座	大阪府八尾市	八尾市健康福祉部 高齢福祉課③	13:30～15:30
3月1日	金	養成講座	大阪府門真市	門真市社会福祉協議会②	13:00～16:00
3月2日	土	祝賀会	京都駅前	ホテル京阪	12:00～17:00

3月3日	日	講演	滋賀県蒲生郡	日野町社協	13:30~16:00
3月4日	月	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:00~14:00
3月6日	水	教室	大阪市西区	介護老人保健施設えきさい	13:30~15:30
3月8日	金	教室	京都市右京区	西院脳活サロン	10:00~12:00
3月8日	金	養成講座	大阪府門真市	門真市社会福祉協議会 ③	13:00~16:00
3月9日	土	教室	京都市北区	鳳徳サロン	13:30~15:30
3月9日	土	養成講座	京都府宇治市	デイサービスセンターわっはっは神明	18:00~20:00
3月11日	月	養成講座	京都府宇治市	青空塾	13:30~15:30
3月12日	火	教室	京都府城陽市	まごころ城陽南部コミセン	13:30~15:30
3月13日	水	教室	京都府井手町	井手町地域包括支援センター	13:30~15:30
3月14日	木	養成講座	京都府宇治市	青空塾	10:00~12:00
3月15日	金	養成講座	大阪府八尾市	八尾市健康福祉部 高齢福祉課④	13:30~15:30
3月15日	金	養成講座	大阪府門真市	門真市社会福祉協議会 ④	13:00~16:00
3月16日	土	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:00~14:00
3月17日	日	イベント	京都府城陽市	運動公園スポーツ大会	10:00~12:30
3月18日	月	講演	三重県松阪市	松阪市第二地域包括支援センター	10:00~15:00
3月20日	水	教室助言	大阪府大阪市	えきさい老健②	13:30~15:00
3月21日	木	カフェ	京都府城陽市	まごころ城陽みんなのカフェ	13:30~15:00
3月22日	金	養成講座	大阪府八尾市	八尾市健康福祉部 高齢福祉課⑤	13:30~15:30
3月22日	金	教室	京都府宇治市	京都認知症総合センター	10:00~10:30
3月23日	土	養成講座	京都府宇治市	デイサービスセンターわっはっは神明	18:00~20:00
3月23日	土	養成講座	京都市上京区	KBS京都カルチャーセンター	10:00~16:30
3月24日	日	養成講座	京都市上京区	KBS京都カルチャーセンター	10:00~16:30
3月26日	火	教室	京都府宇治市	とんがりやまのてっぺんDE	9:30~11:30
3月26日	火	教室	京都府城陽市	まごころ城陽南部コミセン	13:30~15:30
3月27日	水	教室	京都府城陽市	友愛ホーム「もの忘れ予防教室」	9:45~11:30
3月28日	木	教室	京都府宇治市	北宇治地域包括支援センター	10:30~12:00
3月28日	木	教室	京都府城陽市	城陽市社会福祉協議会陽東苑	13:30~14:30
3月29日	金	教室	京都市南区	故郷の家京都デイサービス	13:00~14:00
3月30日	土	養成講座	熊本県人吉市	Dカフェ青い鳥	9:30~17:00
3月31日	日	養成講座	熊本県人吉市	Dカフェ青い鳥	9:30~17:00

第6回NPO法人認知症予防ネット 「認定講師資格審査会」のご案内

記

日 時	2019年 5月19日(日) 10:00~15:30
場 所	ゆめりあうじ
必須条件	当法人の社員(正会員)でリーダー研修を終了したもの
参加費	30,000円(再度申込される方は、10,000円) / 当日受付にて支払い
定 員	10名(先着順)
申込方法	メールにて必要事項を記載し申し込む
申込締切	4月30日(火)

申込メールアドレス npo@n-yobo.net

件名 「認定講師資格審査会の申込」と必ず明記してください。

必要事項: ①氏名(ふりがな) ②住所(郵便番号) ③電話番号 ④メールアドレス

※メールがお使いになれない場合のみ、郵便で

501-2816 岐阜県関市洞戸大野734

佐々木典子宛(審査委員長)にお送りください。

問い合わせ
本部事務局

電 話
0774
45
2835

「認定講師養成講座」開催のご案内

桜の便りが嬉しいこのごろです。会員の皆さまには益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび当法人では「認定講師養成講座」を開設いたします。当法人では、地域のリーダー養成講座の講師として活躍する当法人認定の講師養成が課題となっております。これまでに15の方が当法人認定の講師資格を取得しご活躍です。しかし認知症予防活動を全国的に展開するにはもっと多くの講師の活躍によるリーダー養成講座の開催が求められます。

当法人認定の講師資格を取得するためには、認定講師資格審査に合格しなければなりません。そこで、そのための事前研修の意味も含め「認定講師養成講座」を計画しました。当法人の認定講師資格審査合格を目指す方、ゲームや法人の理念と有効性を高めたゲームの実技指導法をより深く理解したい方、認定講師に興味のある方など、どうぞ奮ってご参加ください。

(資格審査を受ける予定のない方も受講できます)。

第1回「認定講師養成講座」

時間数 全7時間

開催日&時間数 2019年 5月12日(日・5時間)と18日(土・2時間)

開催場所&時間 5月12日：金光教墨染会館 京都市伏見区深草中ノ島町3-7-2

10:00~16:00

5月18日：市民交流プラザ「ゆめりあうじ」 宇治市宇治里尻5-9

10:00~12:00

受講料 8,000円(当日 受付にて支払い)

講座内容

時間数	内 容
1	認定講師として活躍するために
2	導入部分の留意点及びゲーム(1~4)の意義と期待効果
2	ゲームの具体的提示法と2拍子などの理論的説明の仕方
1	リーダー養成講座の運営方法と留意点
1	認知症に対する理解

申込方法 メールで必要事項を記載しお申し込みください。

申込メールアドレス spalnoriko@hotmail.com

件名 認定講師養成講座の申込と必ず明記してください。

記載必要事項：①氏名(ふりがな) ②住所(郵便番号) ③電話番号 ④メールアドレス

※メールがお使いになれない場合のみ、郵便で

501-2816 岐阜県関市洞戸大野734

佐々木典子宛(審査委員長)にお送りください。

参考書:認定講師心得(43p)1000円・リーダー養成講座実録(150p)1000円・講義録最新版(47p)500円
購入ご希望の方は、本部事務局郵便口座に代金をお振り込み下さい。振り込み確認後、発送いたします。

記号番号：00900-1-223642 加入者名 NPO法人認知症予防ネット

事務局からのお願い

会員募集

私たちは「みんなの認知症予防ゲーム」が全国津々浦々まで広がることを願って活動を続けています。ご賛同下さる方は、NPO法人の会員となつて、この活動を支援してくださいますようお願いいたします。

介護殺人 起きない国に
すべての人が

共に明るく暮らせる国に

「みんなの認知症予防ゲーム」で

願い叶える



正会員 入会金 2,000円 年会費 6,000円
 賛助会員
 個人 入会金 1,000円 年会費 (1口)2,400円 1口以上
 団体 入会金 3,000円 年会費 (1口)24,000円 1口以上
 会員 通信無料

郵便振替口座
 加入者名 NPO法人認知症予防ネット
 口座番号 00900-1-223642
 電話 0774-45-2835
 メール npo@n-yobo.net

電車をいくつも乗り換えをして遠くまで一人でお出かけした母を「安心バッジ」が素早く助けてくれました。

無事に帰宅!

みんなの認知症予防ゲーム「スズメの学校」に毎週たのしみに通う喜久枝さん・健一さん親子

安心バッジ

このバッジは、認知症専用ではなく、ご自身が不測の事態で、身元不明にならないためにも、老いも若きも多くの方に利用していただきたいのです。出先で、いつ事故が起きるか分かりません。バッグやポケットの中に入れておくだけでも良いのです。ご自分と関係者の方々の安心の保障です。出来ればこのバッジを付けていただいて、市民の共助・共生のシンボルとして役立ててほしいと、切に願います。

100円

東京フォーラムに招かれて

NPO法人認知症予防ネット名誉理事長

高林実結樹

元は、と言えば平成五年に、偶然手にした雑誌を見たことから始まった、私の認知症予防活動です。今も変わらぬエネルギーの全開ですが、当初の十年間は、一人で、認知症予防ゲーム此処にありと、言い続けましたが、耳を傾けてくれる人は一人もおられませんでした。十年間言い続けた結果、道がつき今に至っています。

東京でグループが誕生。二月五日百人規模という私にとっては天文学的規模のフォーラムを企画されて、招かれました。

衆議院議員会館でのフォーラムは、実は二度目ですが、今回は私の加齢・引退直前の企画で、いわゆる花道なのかなどと思います。このように認知症予防は、完全に市民権を得るところまで来ました。これ以上の結果は、私自身が見る必要はありません。世の中が必要に迫られて、自然に動いていくことでしょう。

今後は、余力のある限り現在三か所の施設訪問を継続し、困難に遭遇する都度、ゲーム進行法の改良を考えて参りたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

◇

